

宮城県 栗原圏域

つなぐ力・支える仕組み ～医療・保健・福祉が連携した支援体制の強化～

栗原圏域は1市のみで構成されている圏域であり、令和3年度から市における協議の場として栗原市自立支援協議会精神部会が設置され、令和6年度から圏域の協議の場として栗原圏域精神障害地域支援会議が設置された。重層的な協議の場を活用して精神障害者のニーズや地域課題を共有すること、様々な取組（事業）を行うことで医療・保健・福祉が連携した支援体制の強化を目指す。

1 圏域の基礎情報

基本情報



障害保健福祉圏域数（R7年4月時点）		1		か所
市町村数（R7年4月時点）		1		市町村
人口（R7年4月時点）		58,445		人
精神科病院の数（R7年4月時点）		1		病院
精神科病床数（R7年4月時点）		46		床
入院精神障害者数 （R5年6月時点）		患者居住地 ベース	病院所在地 ベース	
合計		180	45	人
3か月未満 （％：構成割合）		29 16.1	3 6.7	人 ％
3か月以上1年未満 （％：構成割合）		25 13.9	14 31.1	人 ％
1年以上 （％：構成割合）		126 70.0	28 62.2	人 ％
うち65歳未満		42	0	人
うち65歳以上		84	28	人
退院率（R3年NDB）		入院後3か月時点	60.5	％
		入院後6か月時点	77.2	％
		入院後1年時点	85.5	％
相談支援事業所数 （R7年4月時点）		基幹相談支援センター数	0	か所
		一般相談支援事業所数	2	か所
		特定相談支援事業所数	9	か所
保健所数（R7年4月時点）			1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度 （R6年度）		（自立支援）協議会の 開催頻度【全体会＋精神部会】	5	回／年
		精神領域に関する議論を 行う部会の有無	有	
精神障害にも対応した地域包括 ケアシステムの構築に向けた保 健・医療・福祉関係者による協 議の場の設置状況（R7年4月時 点）		都道府県	有	1 か所
		障害保健 福祉圏域	有	1 / 1 か所／障害圏域数
		市町村	有	1 / 1 か所／市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

<令和6年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R6年度当初)	実績値 (R6年度末)	具体的な成果・効果
<ul style="list-style-type: none"> ・市の協議の場である栗原市自立支援協議会精神部会は、令和3年度から設置され、これまで地域移行に関する課題などに取り組んできた。 ・令和6年度に改めて医療機関や相談支援事業所、市をはじめとする関係者から課題や取組状況に関するヒアリングを実施。 ・令和7年3月に圏域として初めて栗原圏域精神障害地域支援会議を開催し、圏域の課題として「普及啓発」「<u>地域移行</u>」「<u>ピアサポーターの活用</u>」が挙げられた。 			

3-1 圏域の強みと課題

【特徴（強み）】

- ・ 1市のみで構築されている圏域という特徴があり、限られた資源の中で支援体制を構築して支援を行ってきたという土台があるため、市や相談支援事業所をはじめとする関係機関の間で顔の見える関係が形成されている。
- ・ 栗原市自立支援協議会精神部会が令和3年度から開催されており、「にも包括」についての考え方がコアメンバー内で定着している。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割（取組）	
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「心のサポーター」の養成を通して、こころの不調に関するサインに気づくことができる人材の育成を目指す。 ・ 「にも包括」に関する考え方について、支援者向け研修会を通じて支援者間での理解を深める。 	行政	講座や研修会の開催及び参加
		医療	講座や研修会の参加
		福祉	
		その他関係機関・住民等	
地域移行	<ul style="list-style-type: none"> ・ ReMHRADや医療保護入院者台帳といったデータを分析し、地域課題の把握を行う。 ・ 栗原圏域地域支援会議や栗原市自立支援協議会精神部会を通じて現状や課題の共有を行う。 ・ 支援者向け研修会を通じて、課題の共有と課題解決に向けたバックアップを行う。 	行政	協議の場の開催・運営、研修会の実施 データ整理
		医療	協議の場への参加・研修会への参加
		福祉	
		その他関係機関・住民等	
ピアサポーターの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行に関連したピアサポーターの活用について、少しずつでも取り組みが進むよう、活動可能なピアサポーターから活用を試みる。 	行政	現在、自然な形で行われている活動などを大切に、活動の幅が広がるようバックアップを行う。
		医療	
		福祉	
		その他関係機関・住民等	

3-2 圏域の強みと課題

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (R7年度当初)	目標値 (R7年度末)	見込んでいる成果・効果
①栗原圏域精神障害地域支援会議の実施	0回	2回	課題の共有が行われ、多角的な視点による事業の展開が期待される。
②支援者向け研修会の実施	0回	1回	課題の共有が行われ、課題解決に向けた普及啓発による地域の対応力底上げが期待される。
③「心のサポーター」養成研修に係る指導者の育成	2名	5名	普及啓発を行うための人材を育成することで、今後の広がりが期待される。
④「心のサポーター」養成者の育成	5名	15名	正しい知識と理解に基づき、家族や同僚など身近な人に対して、傾聴を中心とした支援を行う「心のサポーター」を育成する。
⑤ピアサポーターの研修会の場における活用	0回	1回	研修会の場において当事者の方に参加いただくことで、支援者側にピアサポーターの活用という視点を持つことが期待される。
⑥都道府県等密着アドバイザーとの打合せ	0回	5回	打合せを行うことで、地域の実情や多角的な視点を持って事業を展開ことが期待される。

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

4-1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

栗原市自立支援協議会精神部会と栗原圏域精神障害地域支援会議、県全域の重層的な協議により、保健・医療・福祉が足並みを揃えて地域課題を抽出し、解決に向けた取り組みを行うことで「にも包括」の構築につなげる。

所管部署名	所管部署における主な業務
北部保健福祉事務所 栗原地域事務所	圏域の協議の場の運営 市/県全体の協議の場への参画 地域における現状と課題の抽出・把握

連携部署名	連携部署における主な業務
栗原市	市の協議の場の運営 協議の場への参画 地域における現状と課題の抽出・把握
管内・管外精神科医療機関	協議の場への参画 地域における現状と課題の抽出・把握
相談支援事業所	協議の場への参画 地域における現状と課題の抽出・把握
県精神保健推進室	県全体における協議の場の運営
精神保健福祉センター	課題解決に向けた技術支援・助言

4-2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	<ul style="list-style-type: none"> ・対応困難事例や措置入院者などに対して、市と保健所が協働して対応を行っている。 ・毎年、関係機関へのヒアリングや事例検討会、各事業での会議や研修会を行っており、支援者同士で連携している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1市1保健所の関係を生かし、普段から顔の見える関係を構築することができている。 ・他自治体での取り組みを探知する機会が少ないという課題があるため、北部保健福祉事務所と1市4町との担当者会議に栗原市と参加している。
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域外の医療機関との連携が多く、ケア会議などを通じて地域移行に関する連携を行っている。 ・令和7年5月から一般精神外来が開始されている医療機関が1か所あり、今後の連携が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域外の医療機関を利用する患者が多く、地域移行を考える際には圏域をまたいだ視点が必要となる。 ・圏域の協議の場に圏域外の医療機関を参集しているが、今後も継続して参集し、課題や現状の共有を行う。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会や各事業での会議や研修会、市及び圏域の協議の場への参加を行い、連携を行っている。 ・栗原市自立支援協議会相談支援部会内での地域課題の抽出作業や検討会・勉強会を通じて連携を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から関係機関同士で顔の見える関係が構築されている。 ・市が設置する協議の場にコアメンバーとして参加するなどしているが、現場からは精神障害に対する関わり方に悩んでいるという声が聞かれる。
その他関係機関・住民等	<ul style="list-style-type: none"> ・市の協議の場に当事者が参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイケアなどの場で自然な形で活躍している方が市の協議の場に参加している。 ・地域全体として高齢化率が高く、長期入院者の家族も高齢であることが多い。キーパーソンの世代交代が起きている。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等（課題・強み等）
栗原圏域精神障害地域支援会議	主催：保健所 栗原市 相談支援事業所 精神科医療機関	協議：年2回 研修：年1回	・協議の実施 ・研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月に初めて開催され、「普及啓発」「地域移行」「ピアサポーターの活用」の3点が課題として挙げられた。 ・他圏域の医療機関に参加いただくなど、栗原市自立支援協議会精神部会との差別化を図っている。
栗原市自立支援協議会精神部会	主催：栗原市 相談支援事業所 当事者 保健所	協議：年2回 研修：年1回	・協議の実施 ・研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に立ち上げられ、コアメンバー内で「にも包括」に関する考え方が浸透している。 ・当事者が令和6年度から協議の場に参加している。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（長期）

事業利用予定年数：令和9年度まで

長期目標	保健・医療・福祉の連携を強化し、圏域の課題解決を目指した事業を行うことで「にも包括」の構築を目指す。
------	--

年度	実施内容	具体的な取組
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の再整理 ・栗原圏域精神保健福祉地域支援会議の開催 ・研修会の実施 ・栗原市自立支援協議会精神部会への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関へのヒアリングの実施、ReMHRADや医療保護入院者台帳の分析圏域の協議の場において、研修会を含めた中長期的な目標の設定、方針の検討を行う。 ・「にも包括」に関する支援者向け研修会を行い、地域移行に関する支援者間での相互理解や精神疾患への理解を深める。 ・年3回実施される栗原市自立支援協議会精神部会に参画することで、重層的な視点で圏域の課題を捉える。
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・今後検討予定 	
令和9年度		

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（今年度）

短期目標 (今年度)	・昨年度の協議の場で挙げられた課題について、解決へ向けた取り組みをスタートする。	
スモール ステップ	・自治体情報シートとロードマップを関係者間で共有する。	
時期（月）	実施内容	具体的な取組
令和7年4月	データ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ ReMHRADや医療保護入院者台帳から、地域の特徴・課題について抽出する。 ・ 栗原市をはじめとする関係機関へのヒアリングを通して、昨年度得られた課題に対する現状などを確認する。
令和7年6月	ヒアリング	
令和7年9月	地域支援会議の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体情報シートとロードマップの共有、意見聴取を行い、今後の方向性と事業の展開に関する検討を行う。 ・ こころのサポーター養成研修について、保健福祉事務所における出前講座開催を行う。
	こころのサポーター養成研修の開始	
令和7年12月	研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援会議での検討を経て課題解決に向けた研修会を実施する。 ・ 今年度の評価、来年度以降の活動に関する方針を再度検討する。
令和8年2月	地域支援会議の実施	